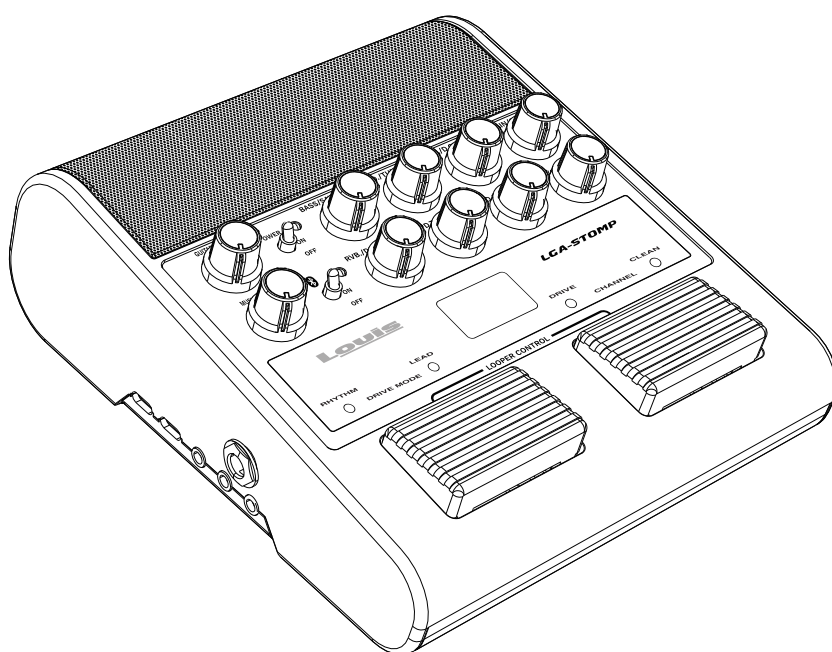


Louis

LGA-STOMP

取扱説明書



次に示す注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、火災、感電、人身傷害など事故を未然に防止するためのものですので、必ずお守りください。また、本書はご使用時にいつでも見られるよう、大切に保管してください。



警告

この注意事項を無視した取り扱いを行うと、使用者が死亡または負傷などの重大な事故を引き起こすおそれがあります。

- この機器を分解したり、改造したりしないでください。
- 修理 / 部品の交換などで、取扱説明書に書かれていないことは、絶対にしないでください。
- 感電防止のため、パネルやカバーを外さないでください。
- キャビネットを開けないでください。
- 修理は販売店に依頼してください。
- この機器は音量設定により難聴になる可能性があります。音量の調整に注意し、大音量で長時間使用しないでください。万一、聴力低下や耳鳴りを感じたら、直ちに使用をやめて専門の医師に相談してください。

設置環境に関して

- 次のような場所での使用や保管はしないでください。
 - ・ 温度が極端に高い場所（直射日光の当たる場所、暖房機器の近く、発熱する機器の上など）
 - ・ 水気の近く（風呂場、洗面台、濡れた床など）や湿度の高い場所
 - ・ 雨に濡れる場所
 - ・ ホコリの多い場所
- 本機の上に液体の入った容器、殺虫剤、香水、アルコール類、マニキュア、スプレー缶などを置かないでください。
- この機器を、ぐらついた台の上や傾いた場所に設置しないでください。必ず安定した水平な場所に設置してください。
- フットスイッチ以外の部分に足をかけて荷重をかけたり、機器の上に重いものを置いたりしないでください。
- この機器を落としたり、この機器に強い衝撃を与えないでください。
- この機器に、異物（燃えやすいもの、硬貨、針金など）や液体（水、ジュースなど）を絶対に入れないでください。

電気、電源に関して

- 内蔵バッテリーは、熱源（火、ヒーター、直射日光、高温の車内など）の近くで充電、使用、または放置しないでください。内蔵バッテリーが損傷し、発火や破裂の原因となります。
- 内蔵バッテリーが破損した場合は、新しいバッテリーを購入してご自身で交換しないでください。品質の劣化により、故障、爆発、または火災を引き起こす可能性があります。内蔵バッテリーの交換については、販売店にご相談ください。
- 電源コードや本製品の他の部品を引っ張らないでください。電源コードやプラグが損傷する恐れがあります。
- 雷雨や落雷の際、または長期間使用しない場合は、本製品の電源をオフにしてプラグを抜いてください。
- 本製品をぶつけたり、投げたり、振動させたりしないでください。
- 内蔵バッテリーを保護するため、涼しく乾燥した場所に保管してください。長期間使用しない場合は、必ずフル充電してください。また、2 ヶ月ごとに必ず充電してください。
- 内蔵バッテリーの残量が少ない場合は、速やかに充電してください。過放電や内蔵バッテリーの残量不足は、バッテリー容量の不可逆的な損失を引き起こし、内蔵バッテリーを損傷するおそれがあります。
- 次のような場合は、直ちに電源を切って、販売店に修理を依頼してください。
 - ・ 異物が内部に入ったり、液体がこぼれたりしたとき
 - ・ 機器が（雨などで）濡れたとき
 - ・ 機器に異常や故障が生じたとき



注意

取り扱いを誤った場合に、使用者が傷害を負う危険、物的損害の発生が想定されます。

- ギター / ベース、シールド・ケーブル、エフェクターなどのケーブルの接続、取り外しは GUITAR.VOL および MUSIC.VOL を "0" にするか、ギターアンプなどを接続している場合は、アンプのボリュームを "0" にしてから行ってください。プラグを抜き差しする際のノイズは本製品のスピーカーや、接続しているアンプなどを破損させる恐れがあります。十分にご注意ください。
- 小さなお子様のいるご家庭で使用する場合、お子様の取り扱いやいたすに注意してください。必ず保護者の方が監視 / 指導してあげてください。
- 接続したコードやケーブル類は、煩雑にならないように配慮してください。特に、コードやケーブル類は、小さなお子様の手が届かないように配慮してください。

使用上のご注意

- 雑音を発生する装置（モーター、調光器など）や消費電力の大きな機器の近くで使用しないでください。
- 充電を行うコンセントは、この機器にできるだけ近い、すぐ手の届くところのものを使用してください。
- この機器の近くにパワー・アンプなどの大型トランスを持つ機器があると、ハムノイズ（うなり）を誘導することがあります。この場合は、この機器との間隔や方向を変えてください。
- 故障の原因になりますのでスイッチやノブに必要以上の力を加えないでください。
- テレビやラジオの近くでこの機器を動作させると、テレビ画面に色ムラが出たり、ラジオから雑音が出ることがあります。この場合は、この機器を遠ざけて使用してください。
- 携帯電話などの無線機器を本機の近くで使用すると、着信時や発信時、通話時に本機から雑音が出ることがあります。スマートフォンを近くに置いて使用する場合は、着信時のノイズにご注意ください。
- また、至近距離から照らす照明器具や強力なスポット・ライトで長時間同じ位置を照射しないでください。変形、変色することがあります。
- 本機の上にゴム製品やビニール製品などを長時間放置しないでください。変形、変色することがあります。
- 本機にシールなどを貼らないでください。はがす際に外装の仕上げを損なうことがあります。

お手入れについて

- 本製品の表面をお手入れする前に、電源を切ってください。
- お手入れは、柔らかい布で乾拭きするか、固く絞った布で汚れを拭き取ってください。
- 変色や変形の原因となるベンジン、シンナーおよびアルコール類は、使用しないでください。

その他の注意について

- 故障の原因になりますので、ボタン、つまみ、入出力端子などに過度の力を加えないでください。
- この機器は多少発熱することがありますが、故障ではありません。
- 音楽をお楽しみになる場合、隣近所に迷惑がかからないように、特に夜間は音量に十分注意してください。

はじめに

この度は Louis LGA-STOMP をお買い上げいただき誠にありがとうございます。

LGA-STOMP はスピーカーを内蔵したバッテリー駆動のマルチエフェクターです。ドラムマシーン機能やルーパー機能も搭載している他、ライン入力や Bluetooth 接続による音楽再生機能も装備しており、スマートフォンやメモリープレーヤーの音楽を再生しながら本体の内蔵スピーカーのみで演奏を楽しむことができるギターアンプ以外の画期的なマルチエフェクターです。

もちろん、ヘッドホン使用時や、OUTPUT 端子にシールドを接続してギター / ベースアンプなどに接続した場合には、内蔵スピーカーから音が出なくなるように設計されていますので、通常のマルチエフェクターとしてライブやレコーディングに使用することも可能です。

また、USB 端子でコンピューターと接続すると、オーディオインターフェースとして使用することが可能ですので、LGA-STOMP で作成したお気に入りの音色で演奏したギター / ベースサウンドを DAW などの音楽制作ソフトウェアにレコーディングすることも可能です。

サウンド面では、14 種類のギターアンプバリエーション、4 種類のベースアンプバリエーションに加え、5 種類のモジュレーションエフェクト、2 種類のディレイエフェクト、2 種類のリバーブエフェクト、3 バンド EQ を装備しており、多彩なサウンドメイキングが可能です。

さらに、ギター / ベースサウンドと、ライン入力や Bluetooth からの音楽ソースを独立して音量調節できますので、LGA-STOMP 一台で好みのバランスを調整しながら演奏を楽しむことが可能です。

自宅練習、ライブパフォーマンス、レコーディング、ライブ配信など、様々なシチュエーションで活用可能な LGA-STOMP でワンランク上のギター / ベース演奏をお楽しみください。

仕様

商品名	：スピーカー内蔵マルチエフェクター LGA-STOMP
内蔵バッテリー	：7.4V 2200mAh リチウムイオンバッテリー
スピーカー仕様	：45mm 内蔵マグネティックフルレンジ 4 Ω /8W スピーカー x 2
定格出力	：5W x 2
音楽出力チャンネル	：ステレオ（ヘッドホン、USB OTG、ライン出力、スピーカー）
ギター再生チャンネル	：モノラル
ギター出力チャンネル	：モノラル
ライン入力チャンネル	：ステレオ
充電インターフェースタイプ	：USB Type-C
急速充電対応	：非対応
充電器要件	：USB Type-C、出力 10W 以上
充電にかかる時間	：およそ 3 時間
満充電時使用可能時間	：2.5 ～ 4.5 時間程度（使用環境によって異なります）
INPUT 入力感度	：-3.1 dBV
LINE IN 入力感度	：0 dBV
LINE OUT 出力レベル	：0 dBV
OUTPUT 出力レベル	：0 dBV（差動出力）、0 dBV
ヘッドホン駆動電力	：52mW
定格ヘッドホン出力負荷インピーダンス	：32 Ω
寸法	：161(L)X182(W)X70(H)mm（金属製スマートフォンマウントを除く）
重量	：940g
付属品	：USB Type-C ケーブル、金属製スマートフォンマウント

※製品の仕様は品質向上のため予告無く変更する場合があります。

※取扱説明書は、PDF ファイルのみのご提供となります。紙のマニュアルは提供しておりませんのでご了承ください。

各部の名称と機能

1 GUITAR.VOL ノブ

INPUT 端子に接続したギター / ベースの音量とドラムマシンの音量を調整するノブです。右に回すと音量が大きくなり、左に回すと音量が小さくなります。※このノブはギター / ベースの音とドラムマシンの音のマスターボリュームとして機能します。ギター / ベースサウンドとドラムマシンサウンドの音量バランスを変更したい場合は、P.11 を参照し、ドラムマシンの音量を調節してください。

2 POWER (電源) スイッチ

LGA-STOMP の電源をオン / オフするスイッチです。トグルスイッチを上倒すと電源がオンになり、下に倒すとオフになります。

3 POWER LED

電源のオン / オフ、および内蔵バッテリーの状態を示す LED です。

USB-C 充電器未接続時

赤色点灯 → 電源オン状態 (内蔵バッテリー使用中)

赤色点滅 → 内蔵バッテリー残量無し (5 分以内に自動的に電源がオフになります)

消灯 → 電源オフ状態

USB-C 充電器接続時

赤色点灯 → 電源オン状態 (内蔵バッテリー満充電)

青色点灯 → 充電中 (電源オン時も充電中であれば青色点灯となります)

消灯 → 電源オフ状態 (内蔵バッテリー満充電)

4 BASS/SAVE ノブ (プッシュスイッチ)

LGA-STOMP のアンプサウンドにおける低域部分を調整するノブです。右に回すと低域が強調され、左に回すと低域が減衰します。この BASS ノブをはじめ、MID./TRE. のノブは、モデリングされたそれぞれのアンプヘッドにおける 3 バンド EQ を想定して設定されています。

また、このノブはプッシュスイッチになっており、様々な音色編集を保存する際の SAVE ボタンを兼ねています。保存の詳細については、P.8 の「CLEAN チャンネルの使い方 2」の項を参照してください。

5 MID./TUNE ノブ (プッシュスイッチ)

LGA-STOMP のアンプサウンドにおける中域部分を調整するノブです。右に回すと中域が強調され、左に回すと中域が減衰します。

また、このノブはプッシュスイッチになっており、チューナーモードを起動するボタンを兼ねています。このボタンを一度押すと 15 のディスプレイにチューニングメーターが表示され、ギター / ベースを弾くと弾いた音の音名 (C ~ B) とオクターブの数字および # が表示されます。オクターブの数字はギター 5 弦 3 フレットの C 音を C3 とした表記になっています。

チューナーモード時はエフェクトがバイパスされます。また、もう一度このノブのプッシュスイッチを押すとチューナーモードから抜けます。なお、本機のチューナーは A=440Hz 固定となります。

6 TRE./D.CTRL ノブ (プッシュスイッチ)

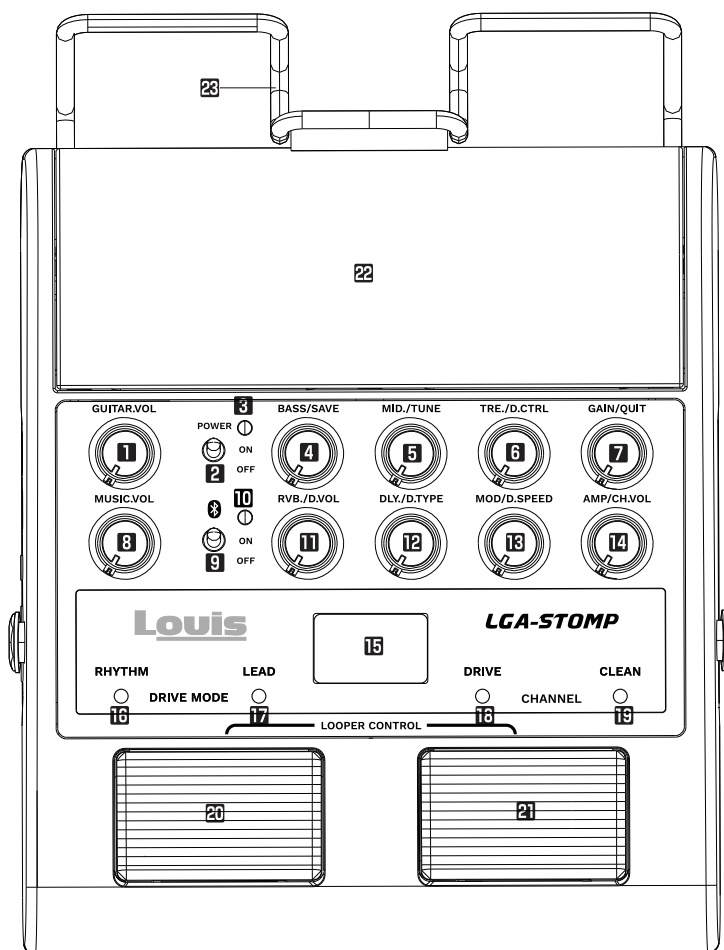
LGA-STOMP のアンプサウンドにおける高域部分を調整するノブです。右に回すと高域が強調され、左に回すと高域が減衰します。

また、このノブはプッシュスイッチになっており、ドラムマシンを起動するボタンを兼ねています。このボタンを一度押すとドラムサウンドが再生される (音量にご注意ください) と同時に、16 のディスプレイが VOL./RHYTHM/BPM の表示に切り替わります。この状態で 11 の RVB./D.VOL を回すとドラムマシンの音量が、12 の DLY./D.TYPE を回すとドラムパターンが、13 の MOD/D.SPEED を回すとドラムマシンのテンポを変更することができます。もう一度このノブのプッシュスイッチを押すとドラムマシンが停止します。

7 GAIN/QUIT ノブ (プッシュスイッチ)

LGA-STOMP のアンプゲインを調整するノブです。右に回すとアンプのゲインが上がり、音量が上がります。左に回すとゲインが下がり音量が下がります。

また、このノブはプッシュスイッチになっており、チューナーモードを除く各編集画面から、一つ前の画面にもどる、またはキャンセルを行う際にこのノブのプッシュスイッチを押します。



8 MUSIC.VOL ノブ

LGA-STOMP の LINE IN 入力および Bluetooth 接続された音楽ソースの音量を調整するノブです。右に回すと音量が上がり、左に回すと音量が下がります。

9 Bluetooth スイッチ

Bluetooth 接続をオン / オフするスイッチです。トグルスイッチを上倒すと Bluetooth 接続がオンになり、下に倒すとオフになります。Bluetooth 接続の詳細については、「Bluetooth 接続」の項を参照してください。

10 Bluetooth LED

Bluetooth 機器の接続状態を表示する LED です。表示の詳細については、「Bluetooth 接続」の項を参照してください。

11 RVB./D.VOL ノブ (プッシュスイッチ)

ディスプレイが DRUM の表示になっている時は、ドラムマシンの音量を調整するノブとして機能します。右に回すと音量が上がり、左に回すと音量が下がります。ディスプレイがチューナーモードおよび DRUM の表示以外の時は、リバーブのミックス量を調整するノブとして機能します (表示が REVERB に変わります)。右に回すとリバーブのミックス量が増え、左に回すとミックス量が減ります。

また、このノブはプッシュスイッチになっており、ディスプレイが REVERB 表示の時に押すと、「1.MIX」表示の左側に表示されている赤いバーが青に変わります。この状態で再びノブを回すと、下に表示されている「2.DECAY」の左側に青いバーが移動します。再度ノブを押してバーを赤色にもどしてからノブを回すとリバーブのディケイ (長さ) を調整することができます。7 の GAIN/QUIT ノブを押すことで元の画面にもどることができます。

また、ディスプレイの表示が DRUM、REVERB 以外の時にノブをプッシュすると、表示が「Selecting Reverb FX...」に変わり、現在選択されているリバーブのタイプが表示されます (Hall または Church)。この状態でノブを回すとリバーブタイプを Hall または Church に変更できます。画面を元にもどすときは、再度 7 の GAIN/QUIT ノブを押してください。

12 DLY./D.TYPE ノブ（プッシュスイッチ）

ディスプレイが DRUM の表示になっている時は、ドラムマシンのタイプ（リズムパターン）を変更するノブとして機能します。00 ～ 35 までの 36 タイプがあり、右に回すと 1 ずつタイプ番号が増え、35 の次は 00 にもどります。左に回すと 1 ずつ減っていき、00 の次は 35 になります。ディスプレイがチューナーモードおよび DRUM の表示以外の時は、ディレイのミックス量を調整するノブとして機能します（表示が DELAY に変わります）。右に回すとディレイのミックス量が増え、左に回すとミックス量が減ります。

また、このノブはプッシュスイッチになっており、ディスプレイが DELAY 表示の時に押すと、「1.MIX」表示の左側に表示されている赤いバーが青に変わります。この状態で再びノブを回すと、下に表示されている「2.TIME」および「3.F.BACK」の左側に青いバーが移動します。再度ノブを押してバーを赤色にもどしてからノブを回すと赤いバーの位置のパラメーターを調整することができます。7の GAIN/QUIT ノブを押すことで元の画面にもどることができます。

また、ディスプレイの表示が DRUM、DELAY 以外の時にノブをプッシュすると、表示が「Selecting Delay FX...」に変わり、現在選択されているディレイのタイプが表示されます（Digital または Analog）。この状態でノブを回すとディレイタイプを Digital または Analog に変更できます。画面を元にもどすときは、再度7の GAIN/QUIT ノブを押してください。

13 MOD./D.SPEED ノブ（プッシュスイッチ）

ディスプレイが DRUM の表示になっている時は、ドラムマシンの BPM（テンポ）を変更するノブとして機能します。30 ～ 240 までの BPM を設定でき、右に回すと BPM が速くなり、左に回すと遅くなります。ディスプレイがチューナーモードおよび DRUM の表示以外の時は、モジュレーション系エフェクトの RATE（周期の速度）を調整するノブとして機能します（表示が MODULATION に変わります）。右に回すと速くなり、左に回すと遅くなります。0% ではモジュレーションがかからない状態になります。

また、このノブはプッシュスイッチになっており、ディスプレイが MODULATION 表示の時に押すと、「1.RATE」表示の左側に表示されている赤いバーが青に変わります。この状態で再びノブを回すと、下に表示されている「2.DEPTH」の左側に青いバーが移動します。再度ノブを押してバーを赤色にもどしてからノブを回すと赤いバーの位置のパラメーターを調整することができます。7の GAIN/QUIT ノブを押すことで元の画面にもどることができます。

また、ディスプレイの表示が DRUM、MODULATION 以外の時にノブをプッシュすると、表示が「Selecting Modulation FX...」に変わり、現在選択されているモジュレーションのタイプが表示されます（Chorus、Vibrato、Flanger、Phaser、Tremolo）。この状態でノブを回すとモジュレーションタイプを Chorus、Vibrato、Flanger、Phaser、Tremolo のいずれかに変更できます。画面を元にもどすときは、再度7の GAIN/QUIT ノブを押してください。

14 AMP/CH.VOL ノブ（プッシュスイッチ）

ディスプレイがチューナーモード以外の時は、チャンネル（DRIVE および CLEAN）ごとの音量を調節するノブとして機能します（表示が AMPLIFIER に変わります）。右に回すと音量が上がり、左に回すと下がります。

また、このノブはプッシュスイッチになっており、ディスプレイが AMPLIFIER 表示の時に押すと、「1.CH.VOL」表示の左側に表示されている赤いバーが青に変わります。この状態で再びノブを回すと、下に表示されている「2.HPF」、「3.LPF」、「4.HIGH」、「5.MID」、「6.LOW」のいずれかの左側に青いバーが移動します。再度ノブを押してバーを赤色にもどしてからノブを回すと赤いバーの位置のパラメーターを調整することができます。このモードからさらにノブを長押しすると、表示が「AMP MISC」に変わり、さらに細かいパラメーターを変更することができます。赤いバーを青いバーに変更してパラメーターを移動する方法は「AMPLIFIER」画面と同様です。この状態から前の画面にもどりたときは、7の GAIN/QUIT ノブを押すと 1 度押すごとに 1 ページずつもどります。

また、ディスプレイの表示が AMPLIFIER および AMP MISC 以外の時にノブをプッシュすると、表示が「Selecting AMP...」に変わり、現在選択されているアンプモデリングのタイプが表示されます（詳細はアンプモデリングリストを参照）。この状態でノブを回すとアンプモデリングを変更することができます。画面を元にもどすときは、再度7の GAIN/QUIT ノブを押してください。

15 ディスプレイ

LGA-STOMP のメインディスプレイです。音色の編集をはじめ様々な情報を確認することができます。

16 RHYTHM LED

DRIVE MODE が RHYTHM になっているときに黄色に点灯する LED です。

17 LEAD LED

DRIVE MODE が LEAD になっているときに赤色に点灯する LED です。

18 DRIVE LED

CHANNEL が DRIVE になっているときに緑色に点灯する LED です。

19 CLEAN LED

CHANNEL が CLEAN になっているときに青色に点灯する LED です。

20 DRIVE MODE フットスイッチ

DRIVE MODE（ドライブモード）を切り換えるフットスイッチです。CHANNEL が DRIVE になっているときに、歪みを抑えめにした RHYTHM サウンドとソロ向きな LEAD サウンドの 2 種類の音色を切り換えることができます。CHANNEL が CLEAN になっているときは、RHYTHM、LEAD どちらに切り換えても音色は変わりません。DRIVE モード時のみ有効ですので、CHANNEL を CLEAN にしている間に切り換えておくと、CLEAN から直接 LEAD サウンドに切り換えたり、CLEAN から RHYTHM サウンドに切り換えることも可能です。

なお、20の CHANNEL フットスイッチと同時に押すと LOOPER CONTROL が行えます。

21 CHANNEL フットスイッチ

CHANNEL（チャンネル）を切り換えるフットスイッチです。CHANNEL が DRIVE になっているときは、20の DRIVE MODE で設定されているどちらかの音色が選択されます。CHANNEL が CLEAN になっているときは、CLEAN で選択されているアンプの音色になります。

なお、20の DRIVE MODE フットスイッチと同時に押すと LOOPER CONTROL が行えます。

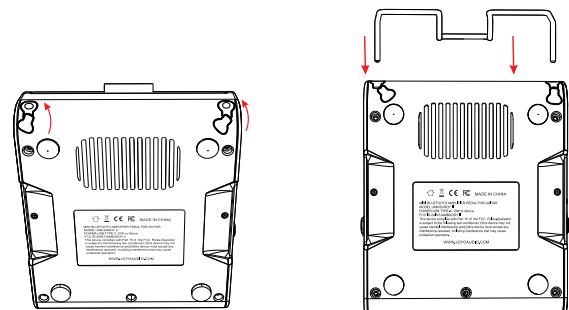
22 内蔵ステレオスピーカー

ギター / ベースサウンド及び LINE IN 端子または Bluetooth で接続した機器の音を再生するスピーカーです。ギター・ベースサウンドはモノラル、LINE IN、Bluetooth 接続はステレオで再生されます。

ヘッドホン端子にヘッドホンを接続した場合と、OUTPUT 端子にシールドを接続すると、内蔵スピーカーからは音が出なくなります。

23 スマートフォンマウント

LINE IN 端子または Bluetooth で接続し、バックトラックとして使用するためのスマートフォンを置くためのスタンドです。購入時は取り付けられておりませんので、必要に応じて下図のように本体背面のゴムキャップを外し、付属の金属製スマートフォンマウントを差し込んでください。



24 INPUT 端子

入力端子です。シールドケーブルを使用してギター / ベースを接続します。抜き差しを行うときは必ず1の GUITAR.VOL を 0 にするか電源を切ってから行ってください。

25 OUTPUT 端子

出力端子です。シールドケーブルを使用してミキサーやアンプなどに接続します。ギターサウンドおよび LINE IN 端子または Bluetooth 接続したオーディオ機器の音を出力します。この端子にシールドを接続すると22の内蔵スピーカーからは音が出なくなります。

なお、この端子はバランス出力にも対応しており、TRS タイプのジャックを使用することでミキサーなどにバランス出力することができます。

26 CHARGE 端子 (USB-C)

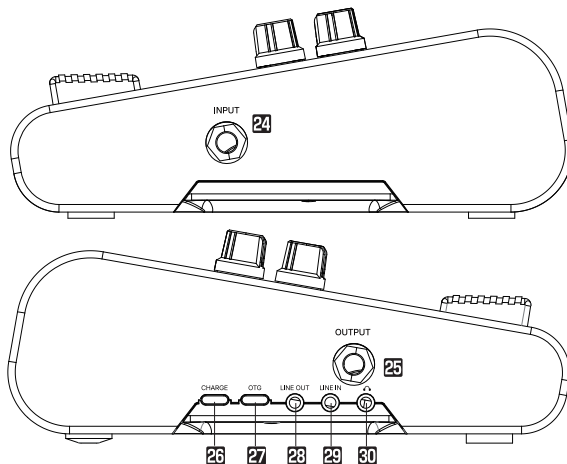
LGA-STOMP の内蔵バッテリーを充電するための USB-C 端子です。携帯電話などを充電する USB 充電アダプター (別売) を接続して充電を行ってください。充電器は出力 10W 以上、5V2A 以上のものをご使用ください。なお、急速充電 (PD 対応) の充電器もご使用いただけますが、急速充電には対応しておりません。

27 OTG 端子 (USB-C)

LGA-STOMP をコンピューターやスマートフォンと接続してオーディオインターフェイスとして使用するための OTG (USB On-The-Go) 端子です。コンピューターやスマートフォン、タブレット端末などと接続すると、LGA-STOMP の出力 (LINE IN 端子または Bluetooth 接続したオーディオ機器の音を含む) を DAW ソフトに録音したり、コンピューターの音を LGA-STOMP の内蔵スピーカーから再生したりすることができます。

なお、LGA-STOMP のオーディオインターフェイスは ASIO に対応しておりません。ASIO 対応の DAW を使用する場合は、ASIO 非対応のオーディオインターフェイスを ASIO 化するドライバが必要となります。※詳細は各ソフトウェアのメーカーにご確認ください。

また、一部のスマートフォンでは OTG 接続をオンにしないと LGA-STOMP を認識しません。スマートフォンの設定アプリから OTG をオンにして LGA-STOMP と接続してください (OTG 接続が完了すると LGA-STOMP のスピーカーから接続音が流れます)。



28 LINE OUT 端子

LGA-STOMP の音 (LINE IN 端子または Bluetooth 接続したオーディオ機器の音を含む) を出力する端子です。この端子を使用しているときは内蔵スピーカーの音も出力されます。LGA-STOMP の音をミキサーや PA システムに送ってライブを行うときや、演奏と同時にレコーディングを行いたいときなどに使用します。

29 LINE IN 端子

mp3 プレーヤーなどのオーディオ機器を接続して LGA-STOMP の音と一緒に演奏する際に使用します。この端子に接続した音は LINE OUT 端子および内蔵スピーカーまたは OUTPUT 端子に出力されます。この端子と Bluetooth 接続はどちらか一方しか使用できないため、Bluetooth 接続中に LINE IN 端子にプラグを接続すると Bluetooth 接続が切れます。

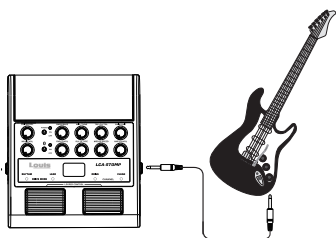
30 ヘッドホン端子

LGA-STOMP の音をヘッドホンで聴くための端子です。この端子にプラグを接続すると、内蔵スピーカーから音が出なくなります。夜間の自宅練習時などにご使用ください。

接続方法 (ご使用の準備)

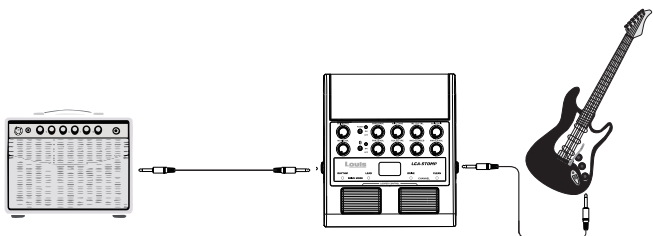
単体での使用

LGA-STOMP の INPUT 端子にギター / ベースを接続してください。



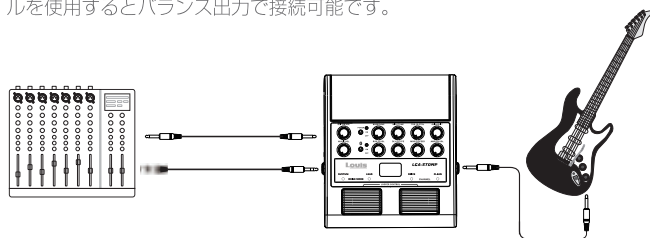
エフェクターとしての使用

LGA-STOMP の INPUT 端子にギター / ベースを接続し、OUTPUT 端子とギターアンプを接続してください。



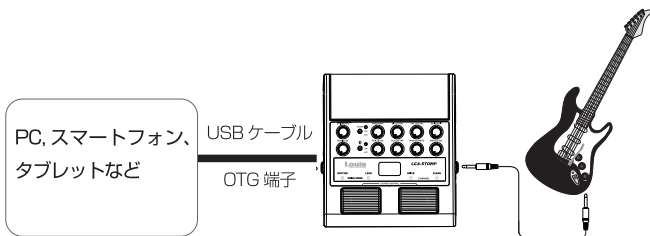
ミキサー、PA システムへの接続

LGA-STOMP の INPUT 端子にギター / ベースを接続し、OUTPUT 端子とミキサー、PA システムを接続してください。このとき TRS タイプのケーブルを使用するとバランス出力で接続可能です。



オーディオインターフェイスとしての使用

LGA-STOMP の INPUT 端子にギター / ベースを接続し、OTG 端子と PC、スマートフォン、タブレットなどの USB 端子と接続してください。



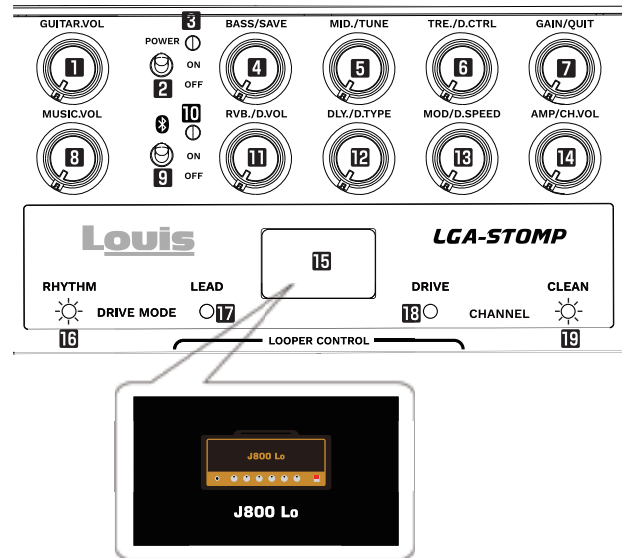
CLEAN チャンネルの使い方

2の電源スイッチをオンにすると、**16**と**19**のLED が点灯した状態で起動します。CLEAN チャンネルとは、**19**のLED が点灯している状態を指し、DRIVE MODE のLED は RHYTHM、LEAD のどちらでも音色は切り替わりません。

まずは**1**、**4**、**5**、**6**のノブを時計の 12 時の位置に合わせた状態で**7**の GAIN を調節し、音量を決めます。

14のノブをプッシュしてディスプレイに「Selecting AMP...」と表示させた状態で、**14**のノブを回すと、アンプモデルの種類を変更できます。アンプモデルによっては音量が大きいものがありますので、必要に応じて**1**の GUITAR.VOL で調節してください。

ギター / ベースを弾きながら好みのアンプモデルを選択します。アンプモデルは全部で 18 種類あります。各モデルの特徴は下記の通りです。



モデル名	サウンド
J800 Lo	ブライトでクリアーなアンプサウンドです。クリーンギターサウンドに適しています。
J800 Lo OD	J800 Lo にオーバードライブエフェクターを加えたモデルです。クランチ系のサウンドに適しています。
J800 Hi	ブライトなクランチサウンドを得意とするモデルです。バックングからソロまで幅広く使用できます。
J800 Hi OD	J800 Hi にオーバードライブエフェクターを加えたモデルです。程よくサステインの効いたロックサウンドが特徴です。
DualRect Red	アメリカン・ハイゲインアンプをシミュレートした密度の濃い歪みが特長のモデルです。幅広いジャンルで活用できます。
DualRect Red OD	DualRect Red にオーバードライブエフェクターを加えたモデルです。ハーモニクスの効いた濃い歪みが特徴です。
5153 EL34	EL34 真空管をパワーアンプに使用した伝説的なハイゲインアンプをシミュレートしたモデルです。ロック系のサウンドにマッチします。
5153 EL34 OD	5153 EL34 にオーバードライブエフェクターを加えたモデルです。濃い歪みにロングサステインが特徴です。
5153 6L6	伝説的なハイゲインアンプをベースに、6L6 真空管をパワーアンプに採用したシミュレーションモデルです。EL34 真空管と比較して、中低域が豊かなサウンドになります。
5153 6L6 OD	5153 6L6 にオーバードライブエフェクターを加えたモデルです。ヘビーメタルサウンドに適しています。
AP BASS	ベーシックなベースアンプのシミュレーションモデルです。幅広いジャンルのベースサウンドに適応できます。
AP BASS UH	AP BASS を基本に高域を強調したアンプモデルです。輪郭を強調したい場合に適しています。
AP BASS UL	AP BASS を基本に低域を強調したアンプモデルです。ファットなサウンドを奏でたい場合に適しています。
AP BASS OD	AP BASS にオーバードライブエフェクターを加えたモデルです。歪みのかかったベースサウンドを求める場合に適しています。
65 Black Nor	アメリカンオールドアンプをシミュレートしたモデルです。中低域にもコシのあるクリーンサウンドが特徴です。
65 Black Nor OD	65 Black Nor にオーバードライブエフェクターを加えたモデルです。粒立ちの良いサウンドでブルースやカントリーにも適しています。
65 Black Vib	高音域が明るめのクリーンアンプサウンドです。ジャキジャキとした歯切れの良いサウンドが特徴です。
65 Black Vib OD	65 Black Vib にオーバードライブエフェクターを加えたモデルです。オーバードライブトーンが際立ち、様々なジャンルに対応します。

CLEAN チャンネルの使い方 2

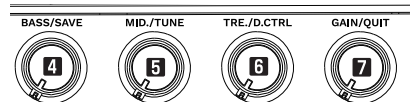
好みのアンプモデルを選択したら、**4**、**5**、**6**、**7**の4つのノブを調節して好みのサウンドを作ります。

音色が出来上がったら**4**の BASS/SAVE ノブをプッシュして「Save Settings ?」の画面を出します。

もう一度**4**の BASS/SAVE ノブをプッシュすると「Saving Settings...」というメッセージが表示されて使用しているアンプモデルのグラフィック画面にもどります。

これで、CLEAN チャンネルのサウンドが保存されました。

※チャンネルフットスイッチでチャンネルを切り換えた際に、保存操作を行ってなくても音色が保持されますが、LGA-STOMP の電源を切ると保存前の状態にもどってしまいますので、必ず保存操作を行ってください。



Save Settings ?

- ・ Press BASS knob again to SAVE
- ・ Press anyother knob to ABORT

Saving Settings...

DRIVE チャンネルの使い方

CLEAN チャンネルが選択されている状態から、**21**のフットスイッチを1回踏んで、**18**の DRIVE LED を点灯させ、DRIVE チャンネルに切り換えます。

DRIVE チャンネルには2つのモードが用意されており、**16**の RHYTHM LED が点灯している状態が RHYTHM モードになります。

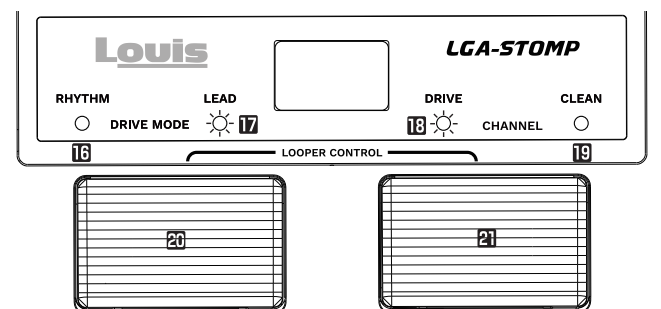
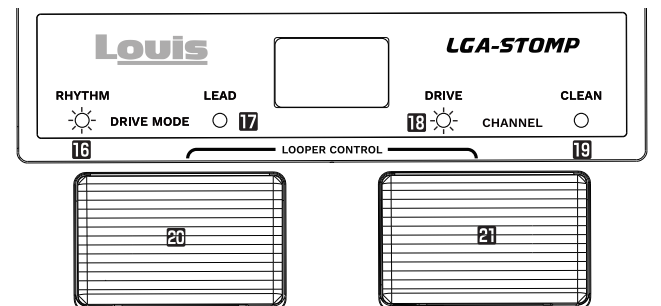
右図の**16**と**18**の LED が点灯している状態で CLEAN チャンネルと同様にアンプモデルを選択し、**4**、**5**、**6**、**7**の4つのノブを調節して好みのサウンドを作ります。

音色が出来上がったら**4**の BASS/SAVE ノブをプッシュして CLEAN チャンネルと同様に保存操作を行ってください。

次に、**20**のフットスイッチを1回踏んで、**17**の LEAD LED を点灯させます。

右図のように**17**と**18**の LED が点灯している状態が DRIVE チャンネルの LEAD モードですので、このまま CLEAN チャンネルと同様に音作りをして保存操作を行います。

※ CLEAN チャンネル、DRIVE チャンネル (RHYTHM)、DRIVE チャンネル (LEAD)、の3つの音色は、どれも同じ編集が可能です。音色の編集具合によっては、CLEAN チャンネルに一番歪みの強い音色を保存し、DRIVE チャンネル (LEAD) にクリーンなサウンドを保存することも可能です。ライブ等で実際に演奏するシチュエーションに応じて臨機応変にご使用ください。



エフェクトについて

LGA-STOMP は CLEAN チャンネル、DRIVE チャンネル (RHYTHM)、DRIVE チャンネル (LEAD) それぞれにリバーブ、ディレイ、モジュレーションの 3 つのエフェクトを設定できます。

搭載されているエフェクトとパラメーターは下記の通りです。

	タイプ		パラメーター	
リバーブ	Hall	一般的なホールリバーブ	MIX	リバーブ音のミックス量
	Church	教会のような深いリバーブ	DECAY	リバーブ音の長さ

	タイプ		パラメーター	
ディレイ	Digital	クリアなディレイサウンド	MIX	ディレイ音のミックス量
	Analog	アナログディレイ特有の甘いサウンド	TIME	ディレイタイム（ディレイの間隔）
			F.BACK	フィードバック量（繰り返しの回数）

	タイプ		パラメーター	
モジュレーション	Chorus	コーラスエフェクト （二重に弾いているような効果）	RATE	モジュレーションの速さ
	Vibrato	ビブラートエフェクト （音程が揺れるような効果）	DEPTH	モジュレーションの深さ
	Flanger	フランジャーエフェクト （うねりを持ったジェットサウンド）		
	Phaser	フェイザーエフェクト （位相干渉によるジェットサウンド）		
	Tremolo	トレモロエフェクト （周期的に音量を上下するサウンド）		

15 のディスプレイにアンプモデルのグラフィックが表示されている状態または他のエフェクトタイプを選択する画面が表示されている状態で **11** の RVB./D.VOL のノブを上からプッシュすると、リバーブのタイプを選択する画面になりますので、ノブを左右に回して選択してください。

同様に **12** の DLY./D.TYPE をプッシュすると、ディレイのタイプを選択できます。**13** の MOD./D.SPEED をプッシュするとモジュレーションのタイプが選択できます。

また、各エフェクトのタイプを選択している画面で、さらにそのノブをプッシュする (アンプモデルの画面からは 2 回プッシュになります) と、パラメーター設定画面に切り替わります。

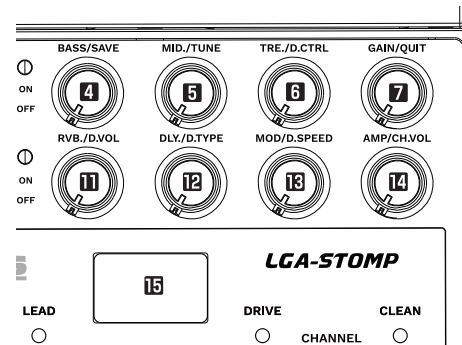
右図のようにパラメーター名左側に赤いバーが表示され、ノブを回すと赤いバーのパラメーターが変更されます。

この状態からさらにノブをプッシュすると右図下のように赤いバーが青に変わります。この状態でノブを回すと青いバーがパラメーター名を移動します。変更したいパラメーターに青いバーを合わせたら、再度ノブをプッシュして赤いバーにもどし、ノブを回すとパラメーターを変更することができます。

一つ前の画面にもどるにはノブを長押しするか、**7** の GAIN/QUIT ノブをプッシュしてください。

エフェクトの編集が終わりましたら、**4** の BASS/SAVE ノブをプッシュして保存操作を行ってください。

※エフェクトの設定は、CLEAN チャンネル、DRIVE チャンネル (RHYTHM)、DRIVE チャンネル (LEAD)、それぞれに独立して設定可能です。



REVERB		
1. MIX		50%
2. DECAY		70%

REVERB		
1. MIX		50%
2. DECAY		70%

アンプサウンドの詳細編集

ディスプレイにアンプモデルのグラフィックが表示されている状態で、**14**の AMP/CH.VOL ノブを押すと、ディスプレイに「AMPLIFIER」と表示され、アンプサウンドを詳細に編集できるようになります。さらにこの状態から**14**の AMP/CH.VOL ノブを長押しすると「AMP MISC」という表示に切り替わり、さらに詳細なパラメーターを編集できるようになります。

※編集方法はエフェクトと同様です。「AMP MISC」から「AMPLIFIER」ページにもどりたいときは、**7**の GAIN/QUIT ノブをプッシュしてください。

「AMPLIFIER」および「AMP MISC」で編集できるパラメーターは下記の通りです。

AMPLIFIER		
1. CH VOL	50%	
2. HPF	OFF	
3. LPF	OFF	
4. HIGH	0dB	
5. MID	0dB	
6. LOW	0dB	

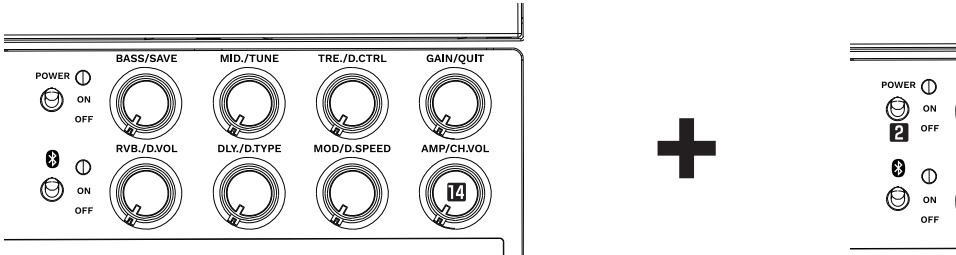
	パラメーター	機能
AMPLIFIER	CH.VOL	チャンネルごとのマスターボリュームです。
	HPF	ハイパスフィルターのカットオフ周波数を設定します。不要な低域を削減することができます。25Hz ~ 1kHz まで設定でき、25Hz 未満はオフとなります。
	LPF	ローパスフィルターのカットオフ周波数を設定します。不要な高域を削減することができます。1kHz ~ 19kHz まで設定でき、19kHz 以上はオフとなります。
	HIGH	高域を増幅（削減）するパラメーターです。変更する周波数は AMP MISC で設定できます。
	MID	中域を増幅（削減）するパラメーターです。変更する周波数は AMP MISC で設定できます。
	LOW	低域を増幅（削減）するパラメーターです。変更する周波数は AMP MISC で設定できます。

AMP MISC		
1. PHASE.IN	Nor	
2. PHASE.OUT	Nor	
3. TREB.FC	1900Hz	
4. MIDD.FC	1000Hz	
5. MIDD.Q	0.7	
6. BASS.FC	400Hz	

	パラメーター	機能
AMP MISC	PHASE.IN	アンプモデルに入力する位相を変更するパラメーターです。Nor は正相、Inv は逆相になります。
	PHASE.OUT	アンプモデルの出力位相を変更するパラメーターです。Nor は正相、Inv は逆相になります。
	TREB.FC	AMPLIFIER の HIGH パラメーターの中心周波数を設定します。
	MIDD.FC	AMPLIFIER の MID パラメーターの中心周波数を設定します。
	MIDD.Q	AMPLIFIER の MID パラメーターの Q（帯域幅）を設定します。
	BASS.FC	AMPLIFIER の LOW パラメーターの中心周波数を設定します。

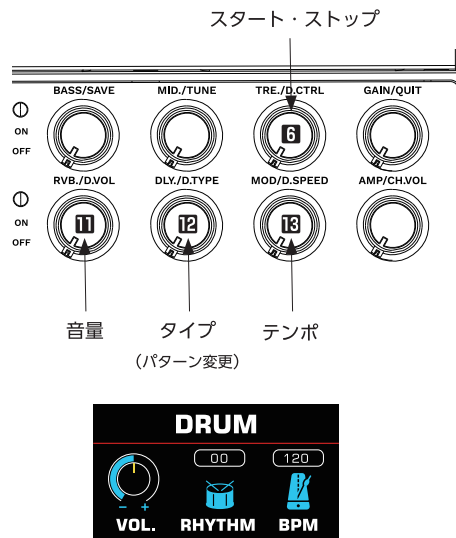
パラメーターの初期化

各種パラメーターを初期化したいときは、一度電源を切ってから**14**の AMP/CH.VOL ノブを押しながら電源を再投入することで初期化できます。



ドラムマシンについて

LGA-STOMPには練習や弾き語りなどに便利なドラムマシン機能が搭載されています。**6**のTRE./D.CTRL ノブをプッシュすると、ディスプレイが「DRUM」に切り替わり、ドラムパターンが再生されます（チューナーモード時以外）。もう一度**6**のTRE./D.CTRL ノブをプッシュすると再生が止まります。ドラムマシンが再生されている最中に、**11**のRVB./D.VOL のノブを回すと、ドラムマシンの音量が変更できます。右に回すと音量が大きくなり、左に回すと小さくなります。同様に**12**のDLY./D.TYPEを回すと、ドラムマシンのリズムタイプが変更できます。ディスプレイに表示される番号とリズムタイプの関係は、下のリズムタイプリストを参照してください。**13**のMOD./D.SPEED を回すとドラムマシンのテンポを変更することができます。**11**、**12**、**13**のノブが上記の機能になるのはディスプレイに「DRUM」と表示されているときだけになります。ドラムマシン再生中にその他のノブをプッシュしたり、回したりしてディスプレイが「DRUM」以外の表示になってしまったときは、再度**6**のTRE./D.CTRL ノブをプッシュして「DRUM」と表示させてから**11**、**12**、**13**のノブを調節してください。なお、チューナーモードに入ると強制的にドラムマシンは停止します。



リズムタイプリスト

TYPE	スタイル	TYPE	スタイル	TYPE	スタイル
00	8Beat 1	12	PUNK	24	DANCE 4
01	8Beat 2	13	Drum'n'bass	25	3/4
02	8Beat 3	14	FUNK1	26	6/8
03	8Beat shuffle	15	FUNK2	27	5/4_1
04	16Beat 1	16	HIP HOP	28	5/4_2
05	16Beat 2	17	R&B	29	Latin
06	16Beat shuffle	18	POP 1	30	Ballad 1
07	Rock	19	POP 2	31	Ballad 2
08	Hard Rock	20	POP 3	32	BLUES 1
09	Metal1	21	DANCE 1	33	BLUES 2
10	Metal2	22	DANCE 2	34	JAZZ 1
11	THRASH	23	DANCE 3	35	JAZZ 2

LOOPER 機能について

LGA-STOMPには練習やライブに便利な LOOPER（ルーパー）機能が搭載されています。ルーパーに何も録音されていないときに、**20**のDRIVE MODE フットスイッチと**21**のCHANNEL フットスイッチを同時に踏むと録音が始まり、ディスプレイ下部に赤いラインが表示されます。

もう一度**20**と**21**を同時に踏むと、録音が停止され録音した内容が再生されます（ディスプレイ下部に緑のラインが表示されます）。

20と**21**を同時に 2 回踏むと再生が止まります。

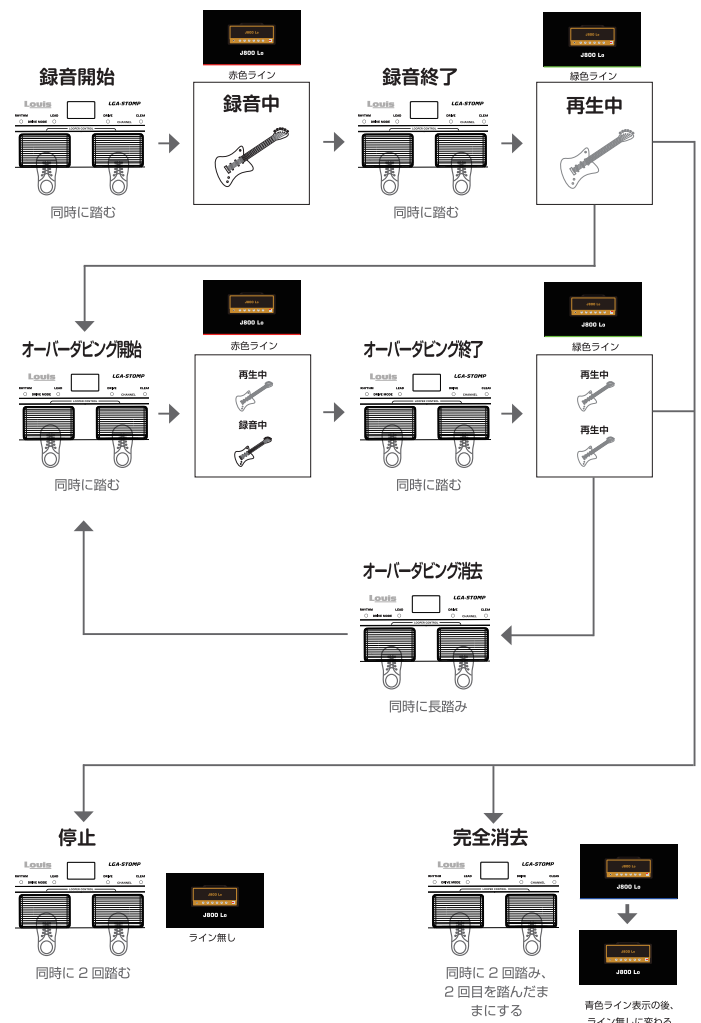
再生を再開するにはもう一度**20**と**21**を同時に踏みます。

ルーパーが再生されているとき（ディスプレイ下部に緑のラインが表示された状態）で**20**と**21**を同時に踏むとオーバーダビングモード（ディスプレイ下部に赤のライン）になり、再生されているコンテンツに演奏を追加することができます。オーバーダビングモードから抜けるには再度**20**と**21**を同時に踏みます。

オーバーダビング後に**20**と**21**を同時に長踏みすると、直前にオーバーダビングした内容を消去することができます。消去中はディスプレイ下部に青いラインが表示され、完了すると緑のラインにもどり、再生が継続されます。

再生中に**20**と**21**を同時に 2 回踏み、2 回目はそのまま踏み続けるとディスプレイ下部に青のラインが表示され、これが消えるとすべてのコンテンツが消去されます。

なお、LOOPER 使用中はドラムマシンのテンポがロックされます。LOOPER に録音したコンテンツが残っているとドラムマシンのテンポ変更ができなくなりますので、忘れずに消去するようにしてください。

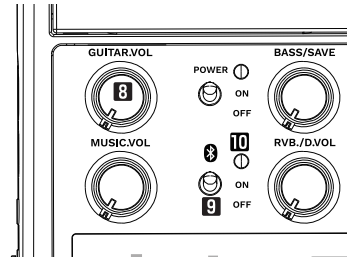


Bluetooth 接続

LGA-STOMP には Bluetooth 機器のオーディオを再生する機能が搭載されています。**9**の Bluetooth 接続スイッチを上側に倒すと、**10**の Bluetooth LED が青く点滅します。この状態でスマートフォンなどの Bluetooth 対応機種から「LGA-STOMP」を選択して接続を完了させます。接続が完了すると**10**の Bluetooth LED が点滅から点灯に変わります。

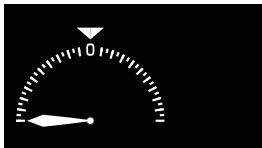
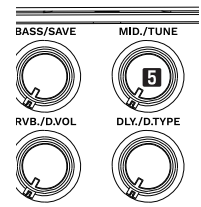
Bluetooth 機器側で音楽などを再生すると、LGA-STOMP の内蔵スピーカー（ヘッドホン使用時はヘッドホン端子、OUTPUT 端子使用時は OUTPUT 端子）から、および LINE OUT 端子から Bluetooth 機器のオーディオが再生されます。

このオーディオの音量を変更したい場合は、**8**の MUSIC.VOL ノブを回して変更します。右に回すと大きくなり、左に回すと小さくなります。なお、ギター / ベースサウンドとは独立して音量を調整できます。



チューナー機能について

LGA-STOMP にはクロマチックチューナー機能が搭載されています。**5**の MID./TUNE ノブをプッシュすると**15**のディスプレイが切り替わり、クロマチックチューナー機能が起動します。左側にメーターのグラフィックが表示され、ギター / ベースを弾くと、右側に音名とオクターブの数値が表示されます。ギター / ベースのペグを調節して、音名とディスプレイ左側のメーターの針が時計の 12 時の位置に合えばチューニングが合った状態となります。なお、チューナー機能を使用している間はエフェクトがバイパスになります。



入力無しの状態



チューニングが低い状態



チューニングが高い状態

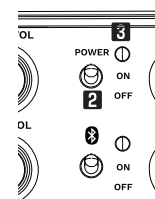


チューニングが合った状態

オートパワーオフについて

LGA-STOMP には内蔵バッテリーの消費を防ぐため、オートパワーオフ機能が搭載されています。

使用時に音を出さずに 20 分以上経過すると、自動的に LGA-STOMP の電源が切れます。再度ご使用になる場合は、一度**2**の POWER スイッチを OFF（下側）にし、再度 ON（上側）にしてください。正常に電源が入ると、**3**の POWER LED が点灯します。



故障かな？と思ったら

■ 電源が入らない。

- ・内蔵バッテリーは充電されていますか？
- ・POWER スイッチは上側になっていますか？

■ 電源が切れてしまう。

- ・内蔵バッテリーの充電は十分ですか？
 - ・オートパワーオフが機能していませんか？
- 電源を入れたまま音を出さずに 20 分以上経つと自動的に電源がオフになりますので、再度電源スイッチを入れ直してください。

■ 電源は入るがスピーカーから音が出ない。

- ・ギター/ベースのボリュームが "0" になっていませんか？
 - ・GUITAR.VOL ノブが "0" になっていませんか？
- ギター/ベースのボリューム、GUITAR.VOL ノブを徐々に上げていき音が出るかご確認ください。

- ・ギター/ベースまたはエフェクターの出力が INPUT ジャックに正しく接続されていますか？
- INPUT ジャックにプラグが正しく挿入されているかご確認ください。またエフェクターをご使用の際はエフェクターの出力 (OUTPUT) 側から INPUT 端子につながっているかご確認ください。

- ・エフェクターなどの機器を接続している場合、それらが正常に動作していますか？
- 接続している機器を全て取り外し、ギター/ベースから LGA-STOMP へ直接接続した状態で音が出るかご確認ください。

- ・ギター/ベース、アンプ間のシールド・ケーブルが断線、または損傷していませんか？
- 一度他のケーブルでもお試してください。

- ・ヘッドホン端子にヘッドホンなどが接続されたままになっていますか？
- ヘッドホン端子に何も接続しない状態でお試してください。

■ ドラムの音が出ない。

- ・DRUM 画面の VOL. が "0" になっていませんか？
- ・TRE./D.CTRL ノブを押して (オン) いますか？

■ LINE IN の音が出ない。

- ・接続した機器の出力ボリュームが "0" になっていませんか？
- 接続した機器の出力ボリュームを徐々に上げていき音が出るかご確認ください。

■ Bluetooth 機器の音が出ない。

- ・Bluetooth 機器との接続 (ペアリング) ができていますか？
 - ・Bluetooth LED は青色点灯していますか？
- 点滅や消灯の場合はペアリングを再度行ってください。
- ・接続した Bluetooth 機器の出力ボリュームが "0" になっていませんか？
- 接続した機器の出力ボリュームを徐々に上げていき音が出るかご確認ください。

■ ノイズが出る。

- ・LGA-STOMP の出力により周囲のものが振動 (共振) して音を出していませんか？
- 設置方法、設置場所によって音色が異なって聞こえる場合がありますので設置方法、設置場所を変えてご確認ください。

- ・エフェクターなどの機器を接続している場合、それらが正常に動作していますか？
- 接続している機器を全て取り外し、ギター/ベースから LGA-STOMP へ直接接続した状態でノイズが出るかご確認ください。

- ・ギター/ベース、アンプ間のシールド・ケーブルが断線、または損傷していませんか？
- 一度他のケーブルでもお試してください。

- ・ギター/ベースの弦高が正しく調整されていますか？
- 弦高が低すぎると、弦が指板に当たりノイズが発生することがあります。

- ・LOOPER 再生中 (ディスプレイに緑のラインが表示) ではありませんか？
- LOOPER に録音されたサウンドが再生されている可能性があります。録音したコンテンツを消去してください。

■ クリーントーンのセッティングでも音が歪む。

- ・ギター/ベースやエフェクターの出力が大きくなりすぎていませんか？
- お使いのギター/ベースの種類や接続する外部機器 (エフェクターなど) によっては、出力が大き過ぎるために歪みを起こす場合があります。このような場合には、ギター/ベースのボリュームを下げる、または接続した外部機器の出力レベルを下げるなどして音量を下げてください。
- ・LGA-STOMP の GAIN/QUIT ノブを上げすぎていませんか？
- GAIN/QUIT ノブを左側に回し、GAIN を下げてください。
- ・電池を搭載しているギター/ベースの場合、電池残量は大丈夫ですか？
- 電池残量が少ないと、小さな音でも歪んだ状態になります。新しい電池に取り替えてからお試してください。

■ ドラムマシンのテンポが変わらない。

- ・LOOPER 機能を使用中または既に LOOPER にフレーズが録音されていませんか？
- LOOPER 使用中およびフレーズが録音されている場合はテンポが変わりません (LOOPER のフレーズを保つため)。テンポを変更したい場合は、LOOPER のフレーズを消去してください。

□ 故障などの場合

この製品は、厳重に検査を終えた上で出荷されております。故障かな？と思ったら、お手数ですが上記の項目をぜひご確認ください。確認後、故障の原因が分からない場合は、お買い上げいただいた販売店にお尋ねください。また、修理をご依頼の際は、速やかに修理を行えるよう、症状を詳しくお伝えくださいますようお願い申し上げます。